

むらいクリニック通信

睡眠時無呼吸症候群(SAS)と高脂血症



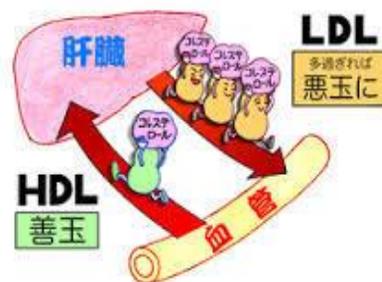
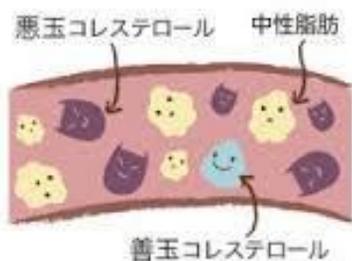
1. 高脂血症とは

血液中にコレステロールや中性脂肪(トリグリセリド)が増加する状態を高脂血症といいます。

高脂血症は動脈硬化の原因となり、善玉コレステロール(HDL)と悪玉コレステロール(LDL)というものがあります。LDLコレステロールは血管壁に取り込まれて蓄積し動脈硬化を起こすので悪玉コレステロールと呼ばれます。逆にHDLコレステロールは血管や組織に蓄積したコレステロールを運び出すため善玉コレステロールと呼ばれます。LDLコレステロールや中性脂肪(トリグリセリド)が増加すると動脈硬化が起こりやすくなります。特に家族性高脂血症では狭心症や心筋梗塞を起こす危険が非常に高いことが知られています。また先に述べたようにHDLコレステロールは少ないほうが動脈硬化を起こしやすくなります。

高LDLコレステロール血症	LDLコレステロール $\geq 140\text{mg/dl}$
低HDLコレステロール血症	HDLコレステロール $< 40\text{mg/dl}$
高トリグリセリド血症	トリグリセリド $\geq 150\text{mg/dl}$

(日本動脈硬化学会：動脈硬化性疾患予防ガイドライン2007年版)



2. SASと高脂血症

睡眠時無呼吸症候群(SAS)を有する患者では、肥満(内臓脂肪の蓄積)を基盤に糖尿病、高血圧、高脂血症などが併発していることが多く、これが動脈硬化性疾患のきわめてハイリスクな状態、すなわちメタボリックシンドロームを呈することになります。SASを有するメタボリックシンドロームの患者ではSASを有さない患者に比べ動脈硬化性疾患の罹患率が高いことが知られています。SAS患者ではその機序に、血中の接着分子やVEGF(血管内皮細胞増殖因子)の増加及び凝固系の亢進が指摘され、それらが経鼻的持続陽圧呼吸療法(CPAP)により減少することが報告されています。したがってCPAPにより動脈硬化性疾患の抑制効果が期待できます。

3. SAS患者にみられる高脂血症の治療とその目標

SAS患者では軽度の肥満を伴っていることが多く、肥満(内臓脂肪の蓄積)がすべての危険因子に影響を与えるため、高脂血症の治療においてもまず食事・運動療法の徹底が必要です。カロリー制限に加え運動療法を継続すれば体重に変化がみられない時期でも内臓脂肪量が先に減少すると言われます。しかし食事・運動療法のみで困難な場合には薬物療法を行います。詳しくは医師に相談されるとよいでしょう。高脂血症の治療の目標は、心臓冠動脈疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患の発症や進展を予防することです。

薬物治療開始後も食事・運動療法の継続が必要です。

◆◆◆◆クリニックよりのお願い◆◆◆◆

泊りの検査を予約された方は、特別な事情を除いてはキャンセルをお控え下さい。

キャンセルされる場合は、早めの連絡をお願いします。

CPAP使用の患者さんは土曜日や20日以降の受診は大変込み合い、待ち時間が長くなります。CPAPの使用状況に関係なく月1回受診してください。月末に来院のない方は受診予定の確認のため、当院もしくは機器メーカーより連絡をする場合がありますので御了承ください。

耳鼻咽喉科・アレルギー科
いびき・無呼吸検査治療室

〒503-0836
岐阜県大垣市大井2-44-2
Tel 0584-77-3838 Fax 0584-77-3839
予約専用Tel 0584-47-9898
<http://www.murai-clinic.jp>

むらいクリニック



予約QR